

# 書香

1985. 3. 25.

NO. 5

## The Hearn Library in 1984

附属図書館長 平田 純

「ヘルン文庫」について書いておきたい。ラフカディオ・ハーンがアメリカのハーパー社と日本についての記事を送る約束で日本へ渡って来たのは1890（明治23）年であった。しかし、行違いがあって絶縁したハーンは、仲に立つ人があって日本で教師の職が与えられ、松江中学校に赴任した。ハーンは松江の土地と人情を愛し、小泉節子という伴侶を得、様々な物語りや説話を知ることにもなった。しかし、次に教鞭をとった熊本の第五高等学校では松江とは違って、西欧化の波に汚された姿に満ち足りぬ思いで三年でそこを辞し、「神戸クロニクル」紙の記者となっている。この間、日本の印象記を『知られぬ日本の面影』『心』などにまとめて、「知られぬ」日本の姿を広く欧米に知らせたのである。日本を愛するハーンは1895（明治28）年帰化して小泉八雲と名乗り、翌96年から東京帝国大学文学部で英文学を講じた。それまでの講義とは違って近代文学や詩の解説と鑑賞を中心としたハーンの講義は学生たちに多大の影響を及ぼした。学生たちのノートを整理して『英文学史』『詩の鑑賞』『文学の解釈』『人生と文学』などの書物が刊行されている。1903（明治36）年東大を離れ、翌年早稲田大学に勤めたが9月急逝した。ハーンは日本に関する印象や随筆、記事、論文を発表した他に、例えば「むじな」「雪女」など多数の日本の説話や怪談を英語で再説し発表している。ハーンの著述の中に、今は失われてしまった、

西欧化される以前の「日本の面影」が探し求められるのである。

×

×

旧制富山高等学校が南日恒太郎先生（その銅像は人文学部の玄関のむかって左側の空間に見られる）を校長として開学したのは1923（大正12）年であった。『英文藻塩草』『英詩藻塩草』『英語熟語辞典』などの著書をもつ英文学者であり、三高、学習院で教壇に立ったことのある南日先生は、北陸の地に建てられたこの学校が文化の中心となるための機縁にと、先生の弟でありまたハーンの高弟でもあった田部隆次氏を通して、ハーンの蔵書購入を交渉され、富山高校を私財を投じて創設された馬場はる子女史から一万五千円の寄附を仰いで購入が実現したのである。時に大正13年6月であった。英文図書1,352冊、仏文図書719冊、和漢書364冊の合計2,435冊とハーンの著書『神国日本』の手書き原稿1200枚である。以後ハーンの著書や伝記、評論等の刊行物が逐次収集され、ハーンの研究者の見学もますます増してきている。ハーンは日本の事物をこよなく愛したが、自ら平仮名で「へるん」と刻んだ印章をつくって（ハーンと書く時の中の棒が嫌いだったという夫人の話が伝わっている）、蔵書に押している。「へるん文庫」の名称の由縁である。

×

×

ハーンは1850年アイルランド人の軍医を父とし、ギリシヤ人を母としてイオニアのレフ

カダ島に生まれた（ラフカディオの名はそれにちなむものである）。日本へのハーンの多大の貢献を記念して1933（昭和8）年、東京日希協会と松江市八雲会はレフカダ島にハーン記念碑を贈ったが、それに応えて1935（昭和10）年ギリシヤの日希協会から大理石のハーン胸像レリーフが東京帝大文学部に寄贈され、同大学総会図書館に収蔵されている。

昨年の初夏の候、柳田学長は日本経済新聞に寄稿された日航アテネ支店長西村六郎氏のレフカダ島ハーン遺跡訪問記の切抜きを示されて、ハーンに関する情報等を尋ねて連絡をとってみようアドヴァイスされた。問合せの便りに早速西村氏からは、ハーン誕生の家やハーン通り、ハーン記念碑の写真に加えてハーン出生届けのコピー、ギリシヤ語訳の、『日本怪談』が贈られてきて、「ヘルン文庫」の貴重な資料となっている。更に八月に入って西村氏から、ハーン記念碑は1948年の地震で崩壊したまゝになっていたのが、このたびレフカダ市当局の手で再建され10月7日に除幕式を迎えるはこびになったとの便りがあった。この慶事に、ハーンにかかわりを持つ本館としては「ヘルン文庫」の目録と写真、「ヘルン関係文献解説目録」、ハーンの肖像写真のコピー等を寄贈した。西村氏からは式典の様子を知らせる便りと共に、再建なった記念碑の写真もお送りいただいている。

× ×

西村氏と連絡をとったのと前後して、東大総会図書館で館長の裏田武夫先生にお目にかかる機会があった。前記のハーンレリーフ像の写真撮影の許可を願ったところ、先生から写真より複製の方がよいのではないかという思いもしなかった有難い言葉をいただいた。柳田学長と川上事務局長に報告したところ大変よろこばれ、その製作実現のために多大の尽力と助成を仰ぐことができた。東京芸大の荒川明照教授の御協力を得てこの二月には実物に勝るとも劣らぬ素晴らしいレリーフ模像が完成し、本館二階のヘルン文庫入口の壁面を飾ることとなったのである。

というわけで1984年は本学の「ヘルン文庫」にとって誠に記念すべき年であったと言えよう。末尾となったが改めて上記の諸先生方と

実際上の仕事と手続きに当たっていただいた多くの方々に、心からの感謝を捧げたい。有難うございました。

## わたしの提案

経済学部教授 棚田良平

このコラムは飛ばして読んで下さい。「いやだいやだ」というのに、館長と編集委員の先生から再三頼まれて、いわば義理で書いたものです。しかし書く以上は、ホンネをそのまま吐かせて戴きます。

さて、わが館報「書香」は教官と学生に配布されているようですが、教官用のものは研究室のかごに直行し、学生用のものは学務係前の廊下の机の上に積まれたままです。

そこで書香のコラム毎に提案いたします。

- ① 学長・館長・学部長の所感欄 廃止したほうがよい。それとも、肩書が執筆すれば館報の価値があがるというものではない。読まされるほうはもちろん、それ以上に書かされるほうも迷惑至極。
- ② 図書館関係会議欄、図書館関係人事欄 廃止すべきである。学報にのっているから重ねて館報にのせる必要はない。また学報以上に詳しいものには関心がもたれてない。
- ③ 教官の随筆欄、文献紹介欄 廃止したほうがよい。執筆された方々にははなはだ失礼ですが、執筆者と個人的なつながりのある人以外は読んでいないのが実情。

そうすると残るコラムは、せいぜい図書館利用状況欄や本学教官の寄贈著書欄などに限られることとなりますが、これだけでは館報の体裁が失われるというのであれば、館報そのものを廃止してはどうですか。費用、事務手数、編集委員の研究時間が浮くではありませんか。廃止によって生ずるマイナスは、メンツのほかになにがあるのですか？

図書館に対する教官の要望は全く別のところにあります。図書館側もよく承知されていることと思いますので、ここでは言及を控えさせて戴きます。毒舌多謝。

なお、本原稿は学部長在任時に書いたものです。

# 図書の貸出手続きの変更について

4月より図書の貸出業務を電算機で処理しますので、利用の方法及び貸出冊数・期間等が以下のとおり変わります。

1. 図書館利用証の交付を受けて下さい。

閲覧係窓口に図書館利用証交付請求書がありますから、この用紙に所要事項を記入し、学生は学生証、職員は身分証明書を添え係員に提出して下さい。交付まで一両日かかります。

2. 図書を借りるときは、図書と図書館利用証を窓口に提出して下さい。電算機で

図書閲覧様式

様式(1)表

富山大学 附属図書館利用証	
←	□
氏 名	_____
所 属	_____
有効期限	_____

様式(1)裏

注 意 事 項	
1.	本学の附属図書館を利用する場合は、必ずこの利用証を持参して下さい。
2.	利用証は表記の本人以外は使用できません。
3.	紛失したとき、住所・氏名等に変更があったときは直ちに届け出て下さい。
4.	有効期間が終了したとき、卒業・退学・退職のときは必ず返却下さい。
富山大学附属図書館	
TEL 0764-41-1271 (内 629)	

様式(2)

コード	所 属
A 01	人 文 学 部
A 02	教 育 学 部
A 03	経 済 学 部
A 04	理 学 部
A 05	工 学 部
A 06	教 養 部
A 11	教 事 局
A 12	学 生 部
A 13	附 属 図 書 館
A 14	トリチウム科学センター
A 15	保健管理センター
A 21	経営短期大学部
A 91	学 外

該当のコードを○で囲んで下さい。

コード	身 分
B 11	学 部 学 生
B 12	学 院 学 生
B 13	専 攻 科 学 生
B 14	研 究 生 生
B 15	聴 講 生 生
B 15	特 別 聴 講 学 生
B 15	外 国 人 留 学 生
B 16	経 営 短 期 大 学 部 学 生
B 21	教 官
B 21	非 常 勤 講 師
B 21	事 務 官
B 21	技 術 官
B 21	用 務 員
B 21	非 常 勤 職 員
B 31	研 究 室 部 局
B 51	名 誉 教 授
B 91	そ の 他

該当のコードを○で囲んで下さい。

貸出処理をして図書と図書館利用証を渡します。従来の図書帯出券、図書帯出証ブックカード等への記入は不要です。

書庫内図書を借りる場合、電算機読取ラベル貼付等の処理が必要ですので少し時間がかかります。

3. 貸出冊数は5冊まで、貸出期間は2週間までとなります。職員は従来どおりです。

※なお工学部分館の利用は従来どおりです。

富山大学附属図書館利用証交付請求書		*No. _____
		昭和 年 月 日
学籍番号又は、 身分証明書番号	※	利用者番号
所属コード	※	発行年月日
左A欄のコード番号を記入して下さい。		
身分コード	※	有効期限
左B欄のコード番号を記入して下さい。		
氏 名	カナ	
	漢字	
現 住 所	郵便番号	電話番号 ( ) -
	_____	
帰 省 先	郵便番号	電話番号 ( ) -
	_____	
学内連絡先	内線	
備考 _____		
学科・研究室・係名等を記入して下さい。		

注意 ・楷書体で正確に記入して下さい。  
・※印は記入しないで下さい。

# 図 書 館 だ よ り

## 1. 図書館業務の電算化について

本学では、昭和59年度において電算機の子算化がなされ、以来、システム選定委員会並びに事務当局の御努力により、このたび機種決定、契約の締結を見るに至りました。ここに図書館業務の電算化が具体的にスタートをしたということになった訳であります。機種は富士通のFACOM-M360ということで、納入は12月の予定で、図書館の端末機はFACOM-9450II が設置されることになっております。

ところで附属図書館の業務電算化の取り組みは何時頃かと申しますと、文部省が、昭和53年に「今後における学術情報センターのあり方」を学術審議会に諮問し、これに基づいて、昭和55年に「学術情報システムの構想」が答申された、この時期と機を一つにして、昭和55年度にワーキンググループが、昭和56年度に商議会の小委員会として電算化委員会がそれぞれ設置され、検討が図られてきた経緯があります。

これまで学内外に奔走されてこられた若林前館長の御努力がやっと緒につき夢が開こうとしております。

図書館ワーキンググループは、機種決定後の本年6月より業者のシステム設計、プログラム設計、その他細部にわたる接渉を行い、また、データ入力、図書へのOCRラベルの貼付などの準備作業を経て、それぞれの業務の稼動までのスケジュール基本計画が下記のとおり出来上った。

### 稼動対象業務及びスケジュール表

対象業務	システム設計	プログラム設計	運用テスト	仮運用
閲覧管理				
システム	5/10 ~ 6/1	6/2 ~ 6/3	6/4 ~	
目録作成システム	5/10 ~ 6/1	6/2 ~ 6/3	6/4 ~	
雑誌管理				
システム	6/1 ~ 6/6	6/7 ~ 6/8	6/4 ~	
図書受入				
システム	6/10 ~ 6/1	6/8 ~ 6/9	6/10 ~	
予算管理・情報検索システム	} 未定		6/4 ~	

## 1-2 利用案内

閲覧管理システムについての業務電算化計画の範囲は、当初開架図書5万冊について行うもので、昭和60年4月以降分の受入図書については、受入れの都度データ入力を行いオーロブックについての、データの輸入は貸出請求の都度行う。利用者は、館内閲覧の場合の手続きは、従来と変わらないが、館外閲覧の場合は、本人の申請に基づいて図書館が発行する富山大学附属図書館利用証(IDカード)を提示することにより利用することができ、従来からの貸出時における図書閲覧証、図書帯出券(証)、ブックカードなど種々の記入手間は電算化により省かれることになり、また、利用者は現物と返却期限票を交付されることにより、簡便に貸出手続きを終ることが出来る仕組みになっております。

## 2. 工学専門図書室の業務開始

富山大学工学部新営第1期工事が昨年度末におわり、工学専門図書室が竣工した。これに伴い、移転作業として夏季休業中に高岡工学部分館にある図書へのOCRラベルの貼付、1期・2期の五福移転図書の振り分け、梱包などの準備作業を経て移転を完了し、工学部職員の方々の御援助を得て、9月23日より業務開始の運びになりました。皆様の御協力に対し紙上を借り報告と御礼を申し上げます次第です。

### 建物の規模

RC-2 (1F 図書室 2F 工学部管理部門)

事務室	50 M <sup>2</sup>
書庫閲覧室	552 "
印刷室	17 "
機械室	31 "
玄関ホール	113 "
WC	25 "
計	788 M <sup>2</sup>

## 文 献 紹 介

### (A)核融合研究の進歩と動力炉開発への展望

発行：日本原子力学会（1976年8月）B—5版，P. 575

(B)我国における核融合研究はプラズマ物理を中心に、早くから多くの成果を上げてきたが、近年では核融合炉システムとしての総合的な研究開発にその関心が移っている。本書はこのような観点から総合科学技術としての核融合炉の開発の進歩と現状、並びに今後の展望を、日本原子力学会「核融合調査」研究委員会がまとめたものである。全体は9章より成り、核融合炉概念、炉心—ブラケット、材料ならびにシステムについて、主として工学的立場からの解説がなされている。

### (B)核融合炉設計及び研究開発の現状と課題

発行：日本原子力学会（1983年4月）B—5版，P. 736

その後の進歩は、上記(A)の発行以後に建設稼動した大型核融合実験装置で得られた研究成果も含めて、本書にまとめられている。ここでは、D-T核融合反応実験を目前に控え、プラズマの高温高密度化、トリチウムの導入と14 MeV 中性子の問題、それらに伴う材料開発等々について詳細に解説されている。

両書により、我国を含めた世界各国における核融合炉の研究開発の現状と今後の課題等を展望できる。

### トリチウムの化学—基礎から応用まで—

発行：日本原子力学会（1982年2月）B—5版，P. 271

日本原子力学会「トリチウム化学」研究専門委員会で4年間の検討の末刊行されたものである。執筆者はいずれも我国第一線の研究者であり、副題のとおりトリチウムの基本的性質から使用方法に至るまで幅広い領域がカバーされている。

全体は9章より構成されており、核及び保健物理的データ、トリチウムの基礎化学、トリチウムと金属、セラミクス及びその他の材料との相互作用、トリチウムの計測、同位体分離、製造と貯蔵ならびに取扱い方法等が解説されている。いずれの項目においても、1981年までの最新データが数多く集録されており、手頃なReference Bookとして利用できる。また、我国におけるトリチウム研究の現状と世界各国の研究の動向を知ることが出来る。

### Plasma Surface Interactions in Controlled Fusion Devices

(Reprinted from J. Nucl Mater., Vols. 111 and 112)

ed. R.A.Langley, R.C.Isler and J.B.Roberto North-Holl and Pub. C., Amsterdam (1982) B—5版，P. 877

核融合プラズマの閉じ込め容器壁とプラズマからもれ出た粒子との相互作用に関する国際会議の論文集である。この会議は1974年以来隔年に催されてきて、表記の論文集はその第5回、1982年5月に米国で開催された時のものである。この論文集には約150編の論文が掲載されているが、それらの内容は大型核融合実験装置による実機試験に関するものと通常の実験室規模での研究に関するものとに大別される。前者においては実機で起きている複雑な現象を解析し、プラズマ制御と材料選定の指針を得ることに、後者においては種々の材料の基本的な物性値の測定、プラズマ—壁相互作用の基本的プロセスの解明ならびに新材料の開発が主たるものである。

D-T核反応実験の実現も間近く、各国の研究者とも、プラズマ加熱及び制御はもとより、炉心部におけるトリチウムと14 MeV 中性子の挙動に強い関心をいだいていることが知れる。

### 富山大学トリチウム科学センター研究報告 Annual Report of Tritium Research Center, Toyama University

発行：富山大学トリチウム科学センター（1981～）

本学トリチウム科学センター発行の研究報告誌で、1981年より毎年一巻ずつ刊行されている。投稿者は本学内の共同利用者、他大学及び研究機関からの学外共同利用者ならびに当センター専門委員会で認められた研究者等である。投稿論文は主として当センターの共同利用として行なわれた研究に関するもので、その内容はトリチウムそのものの性質に関するものからトリチウムの新しい利用法の開発に至るまで多岐に及んでいる。内容及び論文数においても、年ごとに着実に充実したものとなってきており、そのアブストラクトはChemical Abstractをはじめとする2, 3の抄録誌に掲載されている。

（トリチウム科学センター渡邊國昭）

## 図書館利用状況（昭和58年度）

区分	入館者数	館外貸出						参考業務 利用数	文献複写利用数			
		教職員		学生		計			受付		依頼	
図書館本館	243,678	2,789	27,552	14,293	20,853	17,082	48,405	874	3,912	27,773	1,050	28,568
工学部分館		2,742	6,358	4,714	9,597	7,456	15,955	193			883	6,287
合計	243,678	5,531	33,910	19,007	30,450	24,538	64,360	1,067	3,912	27,773	1,933	34,855

### ——— 図書館関係会議 ———

（昭和58年11月～昭和59年9月）

#### 商議会

- 11月28日 次期図書館長候補者の選定方法及び日程について
- 12月24日 次期図書館長候補者の選定について、図書館設備費予算配分（案）について。
- 2月13日 次期図書館長候補者の決定について報告。昭和59年度概算要求の附属図書館関係について報告、大型コレクションについて、工学部分館の移転計画について、次期図書館への引継事項について。
- 4月17日 図書館業務電算化進捗状況について報告、図書館の休館について。
- 5月15日 北信越地区国立大学図書館協議会について報告、昭和59年度附属図書館運営費について、昭和59年度概算要求（案）について、休館についての特別措置、図書館業務電算化計画について。
- 6月26日 第31回国立大学図書館協議会総会について報告、昭和59年度附属図書館運営費に

ついて報告、昭和59年度学生用図書購入費について、昭和59年度参考図書購入費について、昭和59年度基本参考図書購入費について。

#### 国立大学図書館協議会

第31回総会・6月14日15日

- ・当番地区：四国地区協議会
- ・会場館：愛媛大学附属図書館

第1日目：総会、協議会賞受賞者表彰式、研究会。

第2日目：第1，2，3，分科会，全体会議

#### 北信越地区国立大学図書館協議会

第35回 ・4月19日20日

- ・新潟大学附属図書館
- ・協議題  
地区連絡館について、学術情報センター設置に伴うネットワークについて
- ・地区の年報について

### ——— 図書館関係人事 ———

（昭和58年11～昭和59年9月）

#### 採用

- 58. 12. 1 三村紀子（受入係）
- 59. 4. 1 小原俊一（閲覧係）  
見村敏子（閲覧係）

松島珠喜（総務係）学生部学生課へ  
高島仙次（"） 経理部経理課へ  
庄司正文（受入係）経理部経理課より  
武田正夫（"） 経済学部より

#### 転任

- 59. 1. 1 桜井雅和（総務係）  
富山工業高等専門学校より
- 59. 4. 1 土田敏雄（参考係）名古屋大学より

#### 配置換（館内）

- 59. 4. 1 京藤 貫（閲覧係長）受入係より昇任  
関場貞子（受入主任）参考主任より  
池田 勇（参考係） 閲覧係より

#### 配置換（学内）

- 59. 1. 1 石田精一（総務係）経理部主計課へ
- 59. 4. 1 早崎寛威（事務長）  
経営短期大学部より  
竹岡 環（事務長）  
経営短期大学部へ

#### 併任

- 59. 2. 20 平田 純（図書館長）人文学部教授

#### 退職

- 58. 12. 31 水口妙子（閲覧係）
- 59. 4. 1 塩谷孝雄（閲覧係長）